

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 4 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870103003		
法人名	株式会社 ユニケア		
事業所名	アトラス堀江		
所在地	愛媛県松山市堀江町甲844番地6 (電話) 089-978-2899		
管理者	二宮 美保		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 21 年 1 月 30 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 5 日

【情報提供票より】 (平成 21 年 1 月 7 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 3 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	10 人

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	6,500 円	
敷金	有( )円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

### (3) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 25 日事業所記入)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護 1	3 名		要介護 2	1 名	
要介護 3	1 名		要介護 4	3 名	
要介護 5	1 名		要支援 2	名	
年齢	平均 79.7 歳	最低 63 歳	最高	88 歳	

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

夏には海水浴客で賑わう整備された海辺の住宅地にホームは立地している。朝夕の散歩には最適な環境に囲まれ、外気浴が気軽にできる。高齢者医療に力を入れている医療機関がその思いを福祉にもという理念で運営している1ユニットのホームのため、医療との連携には安心感がある。運営者がホームに来ると利用者の顔がほころぶと管理者が言うが、職員も運営者に大きな信頼を置いていることがうかがえる。管理者や職員は専門的なケアを目指してスキルアップに余念がなく、1ユニットの小人数であるため家庭的な雰囲気があり、落ち着いている。運営者のもつ医療機関の理学療法士によるリハビリがあるため、本格的な機器類が共用スペースに置かれ、気晴らしにもなるよう日常生活に取り入れており、利用者の機能維持に取り組んでいる。

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

早期から地域に働きかける活動を行っていたが、地域密着型サービスへの移行に合わせて、「地域」を盛り込んだ理念の見直しを行っている。また、同業者との交流は、同法人以外のホームとの交流や市社協との連携などに力を入れる取組みを行っている。

### ▼ 今回の自己評価に対する取組み状況 (関連項目: 外部4)

今回の自己評価は、約半数の職員が記入したものを管理者がまとめ、その後再度職員に確認を取るという方法で取り組んでいる。職員と管理者では文章表現等のニュアンスに相違があると思われる。自己評価はボトムアップすることに意義があるので、全職員が各々の表現で自己評価に取り組むことを期待したい。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議を、利用者地域とを繋ぐ場として認識しており、形式的にならない運営に心がけている。レジャー客が多い場所柄、治安の面から交番の参加を促していることは、利用者の安全に配慮している取組みと言える。地域住民から、ホームを災害時の避難場所として考えてほしいとの要望が出ることは、地域に定着している表れであり、会議が有用に機能していることがうかがえる。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

1ユニットのホームの特徴とも言えるが、小人数であることが家族との結びつきを深めており、来訪者も多いことから、良好なコミュニケーションが取れている。管理者は距離感を程よく取れる雰囲気を持っており、家族の話には傾聴していることが理解できる。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

地域との関係については、開設後、運営が落ち着いた早期の段階から取り組んでおり、現在では地域の福祉拠点として必要不可欠な存在になっている。ホームが地域に働きかけることで、地域が活性化している状態にあることは、管理者や職員の日々の努力の賜物とも言える。近隣者と垣根越しに世間話に花が咲く、普段着の近所づきあいがあるホームである。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

アトラス堀江

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

二宮 美保

評価完了日

平成 20 年 1 月 5 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 開設時に作成したものであったため 今年作りかえたものである。  (外部評価) グループホームが地域密着型サービスに移行したことを契機に、地域との共存を明確にするため理念の見直しを行っている。「家族と地域と共に穏やかな生活を笑顔で過ごす」を理念をして掲げており、利用者を地域と結びつける意向を明確にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) リビングの見やすいところに掲示して 理念に基づいて取り組むようにしている。  (外部評価) 理念の意味合いを尋ねると「利用者が笑顔で過ごすためには日々のケアの質が問われている」と管理者と職員が異口同音の返答が返ってくる。管理者と職員で十分な話し合いが行われており、理念の実践に取り組んでいることがうかがえる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 誰でも見えるところに掲示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩中に声をかけてもらったり また まもるくんの家にも指定されており 小学校、保育園、推進会議のメンバーの方を通して広がってきている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 町内会に入り 運動会や秋祭り、敬老会、海岸でのバーベキュー等に声をかけてもらっている。また、夏祭り等は地域の方と一緒にとの声もでて交流が広がっている。  (外部評価) ホームでは早期から地域との繋がり構築に取り組んでおり、開設後5年を迎える現在では、地域にしっかりと溶け込んでいる。ホームが地域に働きかけることで地域が活性化している状態にある。管理者や職員は、地域の方とより深くかかわることを計画している。	※	管理者は、ホームが地域の住民となるためには、利用者が近所の家に遊びに行ったり、近隣のお年寄りが遊びに来るなどの普段着の付き合いができることが必要と考えている。実現を期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にて 施設の行事等に声をかけてきてもらえるようにしたいが実際まだ 実現ができていないが実現させたい。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) ミーティングでサービスの評価の意義や目的を全職員に伝え 協力を得ると共に外部評価の結果を伝え改善に向けて努力している。  (外部評価) 今回の自己評価は、約半数の職員が記入したものを管理者がまとめ、その後再度職員に確認を取るという方法で取り組んでいる。職員自らが考えることと管理者が表現することには細かなニュアンスが異なることは否めないと思われるため、全職員の自己評価となっているとまでは言えない。	※	自己評価はボトムアップすることに意義があると考えられる。管理者と職員が同じ考えといっても、言葉で表現すると、視点や思いの相違が確認できることがあるため、時間を費やして全職員が各々の言葉で自己評価に取り組むことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で利用者やサービスについての報告を行い話あいながらサービスの向上案を実施し、また、その内容を報告し、改善を行っている。  (外部評価) 管理者は「運営推進会議は、利用者と地域とのつながりの場所」との意識を持っており、形式的になり過ぎない運営を心がけている。交番に参加を求めるなどは利用者の安全に直結しており、独自の視点が感じられる。会議が閉会した後は、和やかな雰囲気での利用者とのお茶会が開かれている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 夏祭りや運動会のような行事にも声をかけ参加を促している。また、介護保険更新時などできる限り利用者と一緒に行き、情報を提供してまらっている。  (外部評価) 市との連携では、市役所だけでなく、地域包括支援センターや市社協職員など広範囲な機関との往来がある。利用者への理解をより深めてもらうために、これらの職員にもホームのイベントに参加を促している。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について 研修に参加し、話あいで、必要とした利用者について実際に申請を行い、後見人をつけている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加したり ミーティング等で他施設の職員や本施設職員で意見交換し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明を行い、理解、納得を得ると共に分からない事は心おきなくいつでも相談できるようなふいんきづくりをしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 常に利用者の声を聞き問題への解決に努めている。何かあればすぐに対処できるような体制もできている。また、外部の苦情窓口もわかりやすく表示している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月施設便りで報告したり、面会時に話をしたり金銭管理については小遣い帳に記入し毎月レシートと一緒に掲示しサインをもらっている。 <hr/> (外部評価) 金銭出納帳やホーム便りなどを家族に送付している。ホームは小人数であることから家族との結びつきは深く、家族の来訪も多いことから、良好なコミュニケーションが取れている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付窓口・意見箱の設置により苦情を出しやすくと共に、外部の苦情窓口もわかりやすく表示している。苦情があればそれを改善報告し対処できるようにもしている。 <hr/> (外部評価) 家族からの苦情や意見の表出のため、外部機関の提示や意見箱の設置等を行っているが、基本は直接傾聴することと考えて力を注いでおり、家族からは忌憚のない意見が出されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にミーティングを行い職員の声を聞き入れ、よりよい施設をめざし 努めている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 常勤、パートの人材確保により勤務状態は確保されている。勤務表も無理なく仕事ができるよう 休み希望を考慮して 1～2週間単位で作成している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 定期的に悩みを聞き異動や離職を最小限に抑える努力をしている。  (外部評価) 開設時からの職員も多く、異動や離職が少ないため、利用者との関係も良好で、落ち着いた生活を提供している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個々に応じた勉強会への参加や講習会への呼びかけを行っている。参加した場合は記録し月1回勉強会をしている。  (外部評価) 職員の経験や技量に合わせて、法人内での研修や外部研修などへの参加でスキルアップに努めている。また、パート職員にも利用者へのサービス向上のために、積極的に研修参加を促している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 2か月に1回 地域の包括支援センターの開催にて連絡会があり 地域の同業者と意見交換が少しずつできている。  (外部評価) 法人内のグループホーム関係者、管理者や職員の私的な繋がりなどからネットワークを広げている。また、地域包括支援センターが管轄内のグループホーム連絡会を立ち上げているが、まだ始まった段階であり、ネットワークが深まりサービスの質の向上につながってきているとまでは言えない。	※	個々のホームの努力のみではネットワークの構築には限界があると思われるため、地域包括支援センターでの地域ケア会議等を通して、さらなるネットワークづくりが求められる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員のストレスや悩みを把握するよう努めると共にグループ内施設との交流・親睦の場や行事、旅行をもうけている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けた支援をして頂き取得後は活かせるようにしていただいている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談で状況を把握すると共に本人・家族・に施設を見て頂き納得し入所生活を始めてもらう。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談で入所を考えるまでの経緯をゆっくり聞く事により家族の思い、本人の要望や求めているものとの違いを把握した上で受け止める努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状況を把握し何が必要かを見極めグループホームではない場合は、別のサービスの説明や事業所紹介も行っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) どのようにすればスムーズに生活に馴染めるかを家族と事前に相談し何度か来所を繰り返してから入所する等の工夫を行っている。  (外部評価) デイサービスやショートステイなどの事業を行っていないため、急にサービスが開始されることが多い。そのため、ソフト面での対応に力を入れており、安心感を高める場づくりに努めている。また、利用者との関係づくりも重視しており、「馬が合う」組み合わせにも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) いろいろな事を教えてもらったり、支援する側 される側と言う意識をもたずお互いに助けあいながら和やかな生活ができるよう心がけている。  (外部評価) 職員は、利用者からの優しい声かけにケアサービスは相互関係で成り立っていることを実感しており、仕事のやり甲斐を見出している。支えあうとは、労わり合いの関係であるとの認識があり、共同関係が構築されている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時は相互に情報交換し小さな変化もお互いの喜びとし本人が安心して生活できるよう支えていく関係を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 来所時等で関係の理解が深められるようお話を聞かせて頂いたり、良い関係が築ける為の依頼等は心良く受けるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 電話や便りを利用し今までの関係が途切れないよう支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 楽しく過ごせる機会や気の合う者同士で過ごせる場面作りをしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約終了後でも必要とする利用者や家族には互いに連絡したり面会したりして相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の声かけ見守りの中で、また 家族との話し合いの中で思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。  (外部評価) 管理者や職員は、利用者との日常の会話から人生の背景を知ろうという姿勢で、入浴や散歩時など1対1の状況を利用して積極的に聞き取っている。しかし、把握した情報を記入する指定の用紙がないため、情報が埋もれてしまい職員間で共有化されていない場合もある。	※	利用者の生活歴やちょっとした雑談などから得た情報も貴重な財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものであるため、統一した記録用紙に書き足して情報を蓄積し、共有することを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用したり日常生活の中で本人や家族から情報収集し職員みんなが共有し把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の記録の活用や職員間で意見交流を図り把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) できるかぎり介護保険更新時に家族に同席して頂き、状態を把握していただくと共に本人、家族の意向を聞き介護計画を作成している。  (外部評価) 介護計画に基づき全職員で利用者全般のケアを行っている。1ユニットという少人数で目が行き届きやすい特徴をフル活用し、全員できめ細かな介護計画を作成している。活発な意見交換により、介護目標も詳細に記載している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的な見直しをモニタリング、カンファレンスを行って現状に応じた計画を作成している。また、今までにない変化があった場合はその都度話し合い計画変更を進める。  (外部評価) 介護計画は3か月ごと、また、急変等があった場合はその都度見直している。見直しのためにモニタリング票を記載しており、それを基に検討がなされているが、モニタリング票は月1回の記載で、職員の主観に委ねられている面もあり、介護計画の具体的な評価になっているとまでは言えない。	※	リハビリ目標については詳細に毎日評価されており、客観的データとして活用されているので、同様に介護計画についても客観的な把握ができるよう書式等を工夫することを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録に話してくれたこと 職員の工夫等詳しく記入し見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人 家族の状況に応じ通院や買物など必要な支援は対応しサービスを高めるよう努力している。  (外部評価) 1ユニットのホームであるため、利用者に対して目が行き届きやすい、家族の状況を把握しやすいというソフト面でのきめ細やかな対応が可能であり、柔軟性の高い支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい協力してもらえるよう働きかけをしている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 希望がある場合はサービス事業者と相談し利用できる体制は作っているがまだ利用している人はいない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらいいろいろな情報交換・協力関係ができる様になった。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関との連携体制により定期健診や必要に応じて受診等を行っている。  (外部評価) 運営者が在宅の高齢者医療に力を入れており、その理念からホームを立ち上げているため、利用者のかかりつけ医は全員が運営者となっている。在宅時代から掛かっている利用者も多く、安心感の高い医療の支援を行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関との連携体制により連絡をみつにとり必要に応じて専門医を紹介して頂いている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 職員の看護師が日常の健康管理を行い異常があれば協力医療機関と連携し訪問看護・リハなど支援している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時はお見舞い、洗濯物の手助け等かねて頻繁に職員が交代で出向き本人への安心感を与えると共に医療機関と連携を蜜にしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 看取り指針を作成しており入所時に重度化した場合について説明をしている。実際に重度化した場合は主治医と相談し計画を変更するようにするがその指針についても勉強会を行っている。  (外部評価) 法人の理念から、ホームではターミナルケアの実践を念頭に置いている。同法人の他ホームではターミナルケアの実践があり、勉強会などで共有化を図っている。開設後5年であるが、機能保持をしている利用者が多いため、家族とも終末期について深く話し合うことが少ないが、管理者が少しずつ話を進めている段階である。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 協力医療機関の強力なサポートがあるためいつでも相談できる。協力医療機関の医師、スタッフ、と共にチームとしての支援にとりくんでいる。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他院や他施設等に移られる場合情報を共有し、きめ細かな連携を心がけている。		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	(自己評価) ミーティングの時利用者一人一人の状況を共有し、誇りやプライドを傷つけないよう対応の徹底を図っている。  (外部評価) 利用者の誇りを損ねることのないよう、否定するのではなく、理解していることを示しながらゆっくと声をかけている。個人記録類は専用の部屋で適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 服を選んだり買いたいものを自分で選んだり等選択は利用者本位で行われるよう支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースをつかむと共に希望を優先しながら協力もしてもらいながら支援している。  (外部評価) ホームとして一日の生活スケジュールは決めているが、あくまでも目安としており、利用者のペースを優先した支援に努めている。生活のリズムを崩さないため、また共同生活の維持のため、ある程度ホームの決まりを優先させる場合もあるが、その場合は利用者の状況を見極めながら対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 個々の個性にあわせた対応を心がけている。家族さんと行きつけの美容室に行ったり通信販売を利用したり様々である。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できるかたには準備、片付け等の協力を自主的にしていただいている。  (外部評価) カウンターに用意した食事を、利用者と職員が共に配膳している。健啖家の利用者が多く、「おかわりあるよ」との声に、利用者が笑顔で受け答えをしており、明るい笑い声が食卓に響いている。下膳や洗い物を中心となっていて行っている利用者には阿吽の呼吸が見られ、和やかな雰囲気は食後も続いている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 現在タバコをすう利用者はいないが、コーヒー等好きな利用者には量を考える等しながら、楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を使用し 一人一人のパターンの把握に努めている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) できるだけ希望にそえるような対応に心がけている。  (外部評価) 入浴時間は自由であるが、職員配置や利用者の希望などで慣習的になっている。寒いと嫌がる利用者にも、あの手この手で工夫しながら入浴を促している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないようなるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者一人一人の得意分野を把握し、できることはして頂き、楽しみながら生活していただけるよう支援している。  (外部評価) 役割は生きがいに繋がるとの考えから、利用者の状態に応じて可能な家事活動はお願いするようにしている。また、運営者のもつ医療機関の理学療法士が指導するリハビリは、利用者の状況把握が上手くいっているため、楽しみごとの一つともなっているようで、積極的に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望を考慮し、買物等の機会を作り支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 犬との散歩の声かけや買物等の機会を作り支援している。  (外部評価) 利用者の生活リズムを保つため、またホームに閉じこもらない生活を支援するために、散歩などの外気浴を重要視している。ホーム前の海岸にはスロープや階段、舗装道などが整備されており、車の往来も少ないため散歩には最適である。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) マイクロバスを利用しての外出等も家族の方にも参加を促し、支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話がかかってきた時は、静かな場所で話しできるように支援したり 手紙のやりとりも出来るよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも自由に尋ねていただけるよう配慮している。お茶をだすなど居心地のよい空間作りを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ一人一人が十分理解した上で介護を行っている。ただし、生命の危険の伴う方については家族の理解を頂き、その時の同意書 説明書も準備している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中かぎをかけることなくオープンにしている。自由に出入りできるようにしている。  (外部評価) 玄関入口は、夜間の防犯目的以外には鍵は掛けていない。職員の見守りにより、利用者の安全に配慮している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 声かけ、見守りをし常に利用者の所在、安全に配慮をしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に応じて管理の方法を取り決め対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 一人一人の状態を把握し危険なもの そうでないものを判断し 個々に応じた対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作り新人入社時や一年に最低一回は勉強会をしてスタッフ全員が対応できるようにしている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的な訓練を行うと共に推進会議で地域の方の協力が得られるよう働きかけをしている。  (外部評価) 消防署と連携し、避難訓練を年2回行っている。運営推進会議でも地域との協力体制の構築のための働きかけを行っている。運営推進会議で近隣住民から災害時の避難場所としてホームを位置付けてほしいとの意見が出ているように、今後は地域の福祉拠点としての活動が期待されており、対応を検討する段階を迎えている。	※	近隣は住宅地であり、ホームは鉄筋造りのため避難場所としての役割が期待できる。地域と良い関係が構築できているので、地域貢献の方策を明確にする話し合いを進めていくことを期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 一人一人に起こり得るリスクについて家族に説明し抑圧感なく暮らせるよう話しあっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の状況を把握しいつもと違う場合等はすぐに対応できるような体制作りをしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人の服薬の目的 用量等 スタッフ全員が把握できるように一覧表にしてわかるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 野菜中心の食事を心がけたり 運動量や水分量に気をくばりできるだけ薬に頼らない方法を心がけている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアと就寝時に義歯を洗浄剤に入れている事を習慣づけている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の量の把握をし バランスの良い食事作りを心がけている。食事量は記録している。  (外部評価) 法人の栄養士が、カロリーや栄養バランスに配慮した献立をたてている。朝は軽めに、夕食は朝までゆっくりと休むために栄養が必要と考えしっかりとした食事を提供している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 各感染症の勉強会をし 予防 対策に努めている。利用者 家族に同意を頂き インフルエンザの予防接種を受けたり対応している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 台所 まな板 ふきん等は毎日漂白し 清潔に心がけている。冷蔵庫の点検 掃除をまめに行い 衛生面に気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に花を植えたり気軽にきてもらえるように支援している。門は日中は常にあけている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関やリビングのTVのうえに季節に応じた物を飾ったりまた 落ち着いて過ごせるようにしている。  (外部評価) ホームの造りはこじんまりとしているが、利用者がくつろげる場所が点在しているため、気分や状況に応じてそれらの共用空間を使い分けている。共用スペースの一角に本格的なリハビリ機器が備え付けられているが、建具を閉めることで別空間となるような工夫もある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下の所どころにイスやソファを置き日なたぼっこをしたりして過ごせるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自由に持ち込みをして頂き 過ごしやすい空間作りに努めている。  (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 温度 湿度はこまめにチェックし 換気 調整に十分配慮している。必要時には加湿器 空気清浄機の使用もしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりや トイレの手すりの設置等により 自立に向けた生活が送れるよう支援している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 認識間違いや理解力低下により 不安や混乱 失敗が生じた場合にはみんなで話しあい安心して生活できるよう支援している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 自由に散歩したり 犬と遊んだりできるようにしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日常生活の中で 各利用者さんと会話の中で情報を共有している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	日課にしている散歩や お茶、食事を共にし、また 昼食後等はゆっくり過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声かけをし 一人一人のペースで暮らせるよう心がけている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声かけにより にこやかにになれる。また、レクリエーションをもっとふやしもっと笑顔を多くできたらと思う。 自分のしたい事はできる限りして頂いている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々には買い物、最低月2回は全員で出掛けられるように支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	協力医療機関があり医師や看護師 P Tの定期的な訪問も行われ不安を専門家に相談することができている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	時々状況や要望に応じ食事、入浴、レクリエーション等の日常生活について柔軟な支援に心がけている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	本人及び家族と面会時に話をもち 可能な限り応えられる配慮している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	家族さんが主だが 近所の保育園の子供たちが定期的に来てくださったり、推進会議を通して 輪が広がっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	推進会議の回数を重ねるごとに 地域住民や地元の方との輪が広がっている。夏祭りを一緒にとの声も上がっている。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	悩みや相談があれば聞き入れるようにして配慮している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常生活の支援 相談 健康面 リハビリ 外出等を行い 利用者の表情反応からみておおむね満足して頂いていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時にはいろいろと話す機会を持つよう心がけておりその際 家族に応じて難しい援助もできる事はさせてもらって喜んで下さっている。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

協力医療機関の支援 指示により 日々のリハビリに力を入れADL QOL の維持 向上に努めている。マイクロバスで外出の機会を持ち また 季節ごとの行事を楽しんで 生活にはりがもてるようにしている。 開設7年目に入り地域の方との顔なじみも増え輪も広がってきている。 また、食事面でも 野菜や旬の物を取り入れ カルシウムも取れるよう献立も考えてしている。